



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょうざい と しょしょうかい

日本語母語話者に「好まれる言い回し」の理由がわかる

『日本語文法の論点 43

— 「日本語らしさ」のナゾが氷解する —

編著者：近藤安月子・姫野伴子

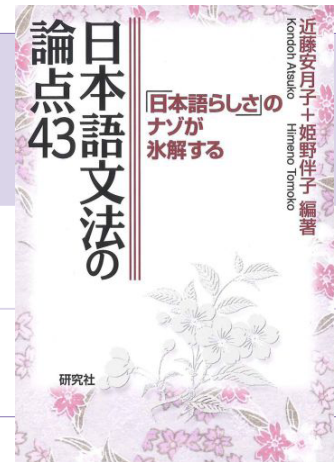
出版社：研究社

URL: <http://www.kenkyusha.co.jp/>

発行年月：2012年2月

ISBN: 978-4-327-38462-3

判型・頁数：A5判 248頁 定価：2,310円(税込み)



自己紹介の場面をイメージして、自分だったら日本語で何と言うか書いてみてください。あなたが言ったのは、次のどちらだったでしょうか。

(1) はじめまして。私は〇〇です。どうぞよろしくお願いします。

(2) はじめまして。〇〇です。どうぞよろしくお願いします。

(1)と(2)の違いは、「私は」があるかないかなのですが、日本語母語話者は、(2)の方が自然に感じます。つまり、(2)の方が母語話者に「好まれる言い回し」であり、「日本語らしい日本語」と言えます。これはなぜなのでしょう。

本書は、母語話者に「好まれる言い回し」を数多く取り上げ、なぜ母語話者はその言い回しを好むのか、認知言語学の観点から解説した参考書です。目次にあるように、論点は「発話の原点」「空間・時間の把握」など全部で6章あり、各章に、論点に関連した文法現象を扱う課があります。各課は、「1.これまで」でその文法現象の先行研究をふりかえり、「2.しかし」で先行研究の成果では解決できていない点を指摘する。これらを踏まえ、「3.実は」で認知言語学の視点に基づく考察を行う。「4.さらに」で、課のまとめを行うと同時に3.の考察が当てる他の文法現象についても触れる、という流れで書かれています。各課が独立しているため、読者は論点の中で特に興味のある文法現象の課を選んで読むこともできます。さらに理解を深めたい場合は、巻末にある参考文献一覧も役に立ちます。

▽ものごとの把握の原点は「私」

(1)(2)に戻り、「私」について考えます。筆者らは、第1課で、日本語母語話者は、「事態の中において自身の周りを感覚や知覚で捉え、目や耳で知覚できるもの、認識できるものを言語化し、知覚できないものは言語化の対象としない傾向がある」と述べています(4ページ)。

出来事を語る際、その語り手であり、中心にいる「私」は、自身の視界には入りません。つまり、日本語の場合、認識の対象ではない「私」は、言語化しないのが「好まれる言い回し」であり、自然

なのです。「好まれる言い回し」は、言語によって異なります。本書には、英語と対照しながら日本語の特徴を解説している箇所がありますが、日本語が、「主観的把握」の傾向のある言語であるのに対し、英語は「私」を言語化した方が自然な、「客観的把握」の傾向のある言語としています。

著者らは、日本語母語話者にとって、ものごとの把握の原点は「私」であり、その「私」が発話の現場に自身を置き、<イマ・ココ>という視点から事態を捉え、主観的に言語化するのが日本語の基本であるとしています。

「恩恵の授受」「迷惑受身」などを含む43の文法現象がこの観点に基づいて考察されています。本書は、大学や大学院で日本語学を学ぶ方、日本語教育に携わっている方の参考書としてお勧めします。日本語非母語話者の方は、自身の母語に引き付けながら読むとよいでしょう。

本書は、大学や大学院で日本語学を学ぶ方、日本語教育に携わっている方の参考書としてお勧めします。日本語非母語話者の方は、自身の母語に引き付けながら読むとよいでしょう。

目次	
第1章 発話の原点 1	第4章 情報構造 109
第1課 私(原点) 2	第22課 「まで」 110
第2課 私(体験者) 7	第23課 「だけ」 115
第3課 「そ」 12	第24課 「ばかり」 120
第4課 「あ」 17	第25課 「のた」 125
第2章 空間・時間の把握 23	第26課 「わけだ」 130
第5課 「に」 24	第27課 前提・焦点・省略 135
第6課 「で」 29	第5章 事態への態度 141
第7課 物理的移動 34	第28課 「でしよう」 142
第8課 体験者の移動 39	第29課 「かもしれない」 147
第9課 働きかけ・受動的移動 43	第30課 「と思う」 152
第10課 変化 48	第31課 「ものだ/ことだ」 157
第11課 ものの授受 53	第32課 「ほうがいい」 162
第12課 恩恵の授受 57	第33課 「つもりだ」 167
第13課 「でしよう」 62	第34課 「ように」 172
第14課 「もう/まだ」 67	第35課 「しよう」 177
第15課 「したところだ/したばかりだ」 72	第6章 聞き手への態度 183
第3章 現場性 77	第36課 「できませんか/もらえませんか」 184
第16課 遠慮受け身 78	第37課 「てください」 189
第17課 可能 83	第38課 「ませんか」 194
第18課 「見える/聞こえる」 88	第39課 「ましよう(か)」 199
第19課 「する/なる」 93	第40課 「あなた」 204
第20課 無動詞 98	第41課 謙譲語 209
第21課 事態まるごと 103	第42課 文体 214
	第43課 「よ/ね」 219
	参考文献一覧 225
	執筆担当課一覧 233
	索引 234

このコーナーの担当者：押尾和美 / 日本語国際センター専任講師